

「国立国会図書館の来た道、行く道」

2024.3.14

データを拓く。 国立国会図書館の電子化 への道

— 書誌情報から電子図書館へ —

元国立国会図書館・立正大学文学部特任教授
日本図書館協会分類委員長
中井 万知子

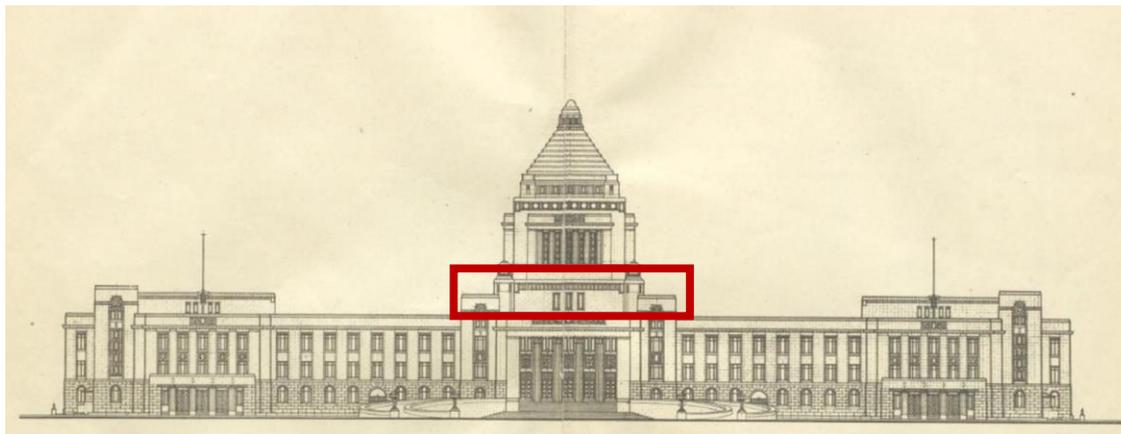
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><rdf:RDF xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#"
xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dc="http://purl.org/dc/terms/"
xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/"
xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" rdf:about="https://research.ndl.go.jp/books/R100000002-
I033045115"><dcndl:catalogingstatus>C7</dcndl:cat
><dcterms:description>type
book</dcterms:description><dcndl:transcription>ユメ ミル「 デンシトシヨ
ry>111</dcndl:bibRec
I033045115</dcndl:bibRec
```

はじめに：なぜ、「夢見る電子図書館」か？

- 38年間の国立国会図書館（NDL）の業務の中で…
- 「電子図書館」と称された事業の起点から成長過程まで、立ち会うことができた
- そして、まさに進行中。
- 紆余曲折があり、様々な人々がいろいろに関わってきたことを考えると、中島京子さんの『**夢見る帝国図書館**』（文藝春秋，2019）の、“夢見る”という語が頭から離れなくなった
- 「電子図書館」、そして自分が多く携わってきた「データ」にまつわる、NDLのある一面史

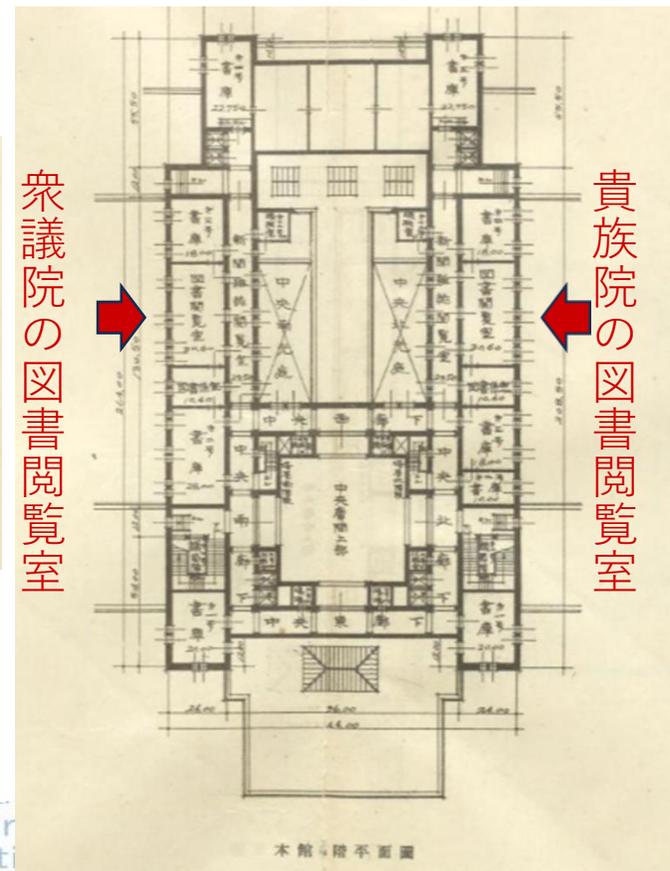
国立国会図書館の誕生 1

- 二つの源流 = 「帝国図書館」と「帝国議会両議院の図書館」



1936（昭和11）年完成の国会議事堂
東正面図

[大蔵省]営繕管財局 編『帝国議会議事堂建築報告書』[附図],営繕管財局,昭13.
国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/8312431>



4階平面図（部分）

国立国会図書館の誕生 2

- 第二次世界大戦終戦により、議会図書館設置への動きが本格化
 - 国会のためだけでなく、国民のための図書館
- 「国会法」（1947（昭和22）年5月3日施行）で「国会図書館」の設置を規定
- 両院（衆議院・参議院）の常任委員会であった図書館運営委員会が、組織や機能について審議を開始
- 米国からの図書館使節団の草稿をもとに「国立国会図書館法」を起草、1948（昭和23）年2月4日の衆議院および参議院の本会議に提出（第2回国会）

1948（昭和23）2月4日衆議院本会議および参議院本会議における「国立国会図書館法」提出の趣旨説明（「国会会議録検索システム」より）

中村嘉壽（なかむら かじゅ） 衆議院図書館運営委員長

本法案は、わが日本におきまして文化國家を創立する、非常に重要な法律案でございます。すなわち、そのねらいとするところは、知識の泉であること、立法のブレンであること、整理の元締、すなわち能率の増進をはかること、かようなところがねらいなのであります。昨年四月二十八日に公布されました国会図書館法によりまして、りつばな図書館をつくろうという計画だつたのでありますが、この図書館はきわめて有効なものにし、そうして少し違つたものにせなければならぬというわれわれの考え

<https://kokkai.ndl.go.jp/txt/100205254X01519480204>

羽仁五郎（はに ごろう） 参議院図書館運営委員長

眞理は我らを自由にする。これがこの国立国会図書館法案の全体を貫いておる根本精神であります。今日の我が國民の悲惨の現状は、従來の政治が眞理に基かないで虚偽に基いていたからであります。國民の安全と幸福とを守ることを期待されておりました先の日の議会が、その任務をはたすことができないうで、遂に官僚、軍閥の前に屈してしまつたのは、立法の全権及びその立法の基礎となるべき調査資料を議会みずからが全く持つていながつたからであります。新憲法により国会が國の最高唯一の立法機

<https://kokkai.ndl.go.jp/txt/100215254X01119480204>

国立国会図書館の誕生 3

- 「国立国会図書館法」の公布・施行（1948（昭和23）年2月9日）
 - 国会、行政司法各部門そして日本国民への図書館奉仕
 - 「理念」と「機能」
 - 知識の泉、立法のブレイン、整理の元締（もとじめ）
- 「国立図書館」としての機能をどう果たしていくか
 - 納本制度、日本国内の出版物の目録の刊行、総合目録の作成等
 - 国立図書館（旧帝国図書館）の「支部上野図書館」としての統合（1949（昭和24）年4月）

書誌情報のフロンティア

「書誌コントロール」と「機械化」 1

- 「整理の元締（もとじめ）」の国際的背景
- ユネスコ（国際連合教育科学文化機関、1945年11月設立）が掲げた任務
 - 「いずれの国で作成された出版物及び刊行物でも、すべての国の人民が利用できるようにする国際協力の方法を発案すること」（「ユネスコ憲章」より）
- そのためには、各国の出版物に関する情報（各国の「全国書誌」）が、確実に作成され、国際的に共有されることが重要
- 国内的・国際的な「書誌コントロール（書誌調整）」を提唱
- その後、IFLA（国際図書館連盟）が「国際書誌コントロール・プログラム（UBC）」を実施、標準化の推進などさまざまな活動が行われる

書誌情報のフロンティア

「書誌コントロール」と「機械化」 2

- 設立間もないNDLにとって、書誌情報への取組みは世界に通じる窓だった
- 1950年代から「印刷カード」の頒布、『全日本出版物総目録』、「雑誌記事索引」の編さん等に取り組む
- 1960年代のコンピュータの実用化によって書誌情報のデータ化への道が開かれる
- NDLは70年代初頭からコンピュータを導入、「業務機械化」に着手、1981（昭和56）年から『日本全国書誌』のデータ版の「JAPAN/MARC（ジャパン・マーク）」を頒布
- 目録の遡及入力を行い、データベース化、書誌情報を蓄積

電子図書館プロジェクトの始まり 1

- 80年代からのElectronic Libraryへの期待
 - 『紙からエレクトロニクスへ』 Lancaster 著 ; 田屋裕之訳（原著は1982、日本語訳は1987（昭和62）年刊）
 - 書誌情報だけでなく、資料自体が電子化され、提供される可能性
- 1990年代、インターネットの登場、情報通信基盤の構築⇒広大な電子のフロンティアの出現
- 長尾真 『電子図書館』（1994（平成6）年刊）
 - Digital Libraryの実験⇒電子コンテンツ自体の構造の探求
- 世界各国でさまざまな電子図書館プロジェクトが始動

電子図書館プロジェクトの始まり 2

- 80年代からのNDLの「関西館構想」
 - 関西文化学術研究都市に新施設を建設
 - 情報通信技術の活用、遠隔サービスの実現
- 協力事業として、1994（平成6）年から「パイロット電子図書館プロジェクト」に着手
 - 資料電子化の実証実験
 - 総合目録ネットワークシステム
- 「国立国会図書館電子図書館構想」の策定（1998（平成10）年5月）
 - 一次情報（資料そのもの）と二次情報（資料に関する情報）の通信ネットワークによる電子的な提供
 - 関西館開館の2002（平成14）年を目途に取組む

電子図書館プロジェクトの始まり 3

- 「構想」から「計画」へ
- 総務部企画課電子図書館推進室（1998（平成10）年4月設置）による準備作業
- 明治期刊行図書（所蔵約17万冊）の電子化
 - 著作権調査が前提→著作権保護期間が満了した図書を電子化→さらに著作権者の連絡先調査
- ネットワーク情報資源の収集・保存
 - 消失しやすく変わりやすいボーンデジタル情報を文化資産として保存
 - 何を、どう集めるか・・・
- 2002（平成14）年4月、関西館設置、関西館電子図書館課の創設

2002（平成14）年10月、関西館開館時に公開されたサービス：「近代デジタルライブラリー」



『国立国会図書館70年記念館史：デジタル時代の国立国会図書館1998-2018』
(2021) p.129より

2024/3/14

初期の近代デジタルライブラリー トップページ (平成 16 (2004) 年 7 月頃)

rms:identifier
<rdfs:seeAlso

er><dcterms:title> 夢見る「電子図書館」
idl:transcription>ユメ ミル「 デジ ト ショ
c:title><dcterms:creator><foaf:Agent

2002（平成14）年10月、関西館開館時に公開されたサービス：

「WARP：国立国会図書館インターネット資源選択的蓄積実験事業」



『国立国会図書館70年記念館史：デジタル時代の国立国会図書館1998-2018』（2021）p.129より

ns:identifier
rdfs:seeAlso

2002（平成14）年10月、関西館開館時に公開されたサービス：

「NDL-OPAC：国立国会図書館蔵書検索・申込システム」

The screenshot displays the NDL-OPAC (National Diet Library Online Public Access Catalog) interface. At the top left, it reads "NDL-OPAC 国立国会図書館 蔵書検索・申込システム". A navigation bar includes "English page is here". The main content area is divided into several sections:

- 一般資料の検索／申込み**: Includes a search box for titles and authors/editors, and a "検索" (Search) button. Below it, a section for "【簡易検索窓】(対象:和図書)" allows searching by title or author/editor.
- 一般資料の検索(拡張)／申込み**: A section for searching expanded general materials.
- 雑誌記事索引の検索／申込み**: A section for searching magazine article indexes.
- 規格・レポート 類の検索／申込み**: A section for searching standards and reports.
- 日本占領関係資料の検索**: A section for searching Japanese occupation-related materials.
- プラング文庫の検索／申込み**: A section for searching Plang Library materials.
- 点字・録音図書全国総合目録の検索／申込み**: A section for searching Braille and audio book national general catalogs.

On the left side, there is a login section for "登録利用者ID" (Registered user ID) and "パスワード" (Password), and a "利用の手引き" (User Guide) section with "稼働時間" (Operating hours) listed as 月～土 7:00～29:30(翌日5:30) and 日 7:00～25:00(翌日1:00) (第3日曜(は)22:00まで). A "利用者情報の更新" (Update user information) button is also present.

『国立国会図書館70年記念館史：デジタル時代の国立国会図書館1998-2018』（2021）p.118より

その展開 1

- 「電子図書館」から「デジタルアーカイブ」へ
 - 「電子図書館中期計画2004」の目標設定
 - 国のデジタルアーカイブの拠点
 - デジタルアーカイブのポータル
- 長尾真のNDL館長時代、2007（平成19）年4月～2012（平成24）年3月
 - 2009（平成21）年の「著作権法」改正＝NDL所蔵資料の保存のための電子化 ⇒大規模デジタル化の実施
 - ネットワーク情報資源の収集保存のための「国立国会図書館法」の改正
 - 2009年の「インターネット資料」（公的機関のインターネット情報）の収集制度化、2012年の「オンライン資料」（民間の電子書籍、電子ジャーナル等）の収集制度化

その展開 2

- 「NDLデジタルコレクション」の公開（2011（平成23）年～）
 - 2012（平成24）年の「著作権法」改正によって、絶版等入手困難な電子化資料の図書館送信が可能に
 - 2021（令和3）年の同法改正によって、絶版等入手困難な電子化資料の登録利用者への個人送信が可能に
 - 2022（令和4）年12月、電子化資料のテキストの全文検索を開始
- ポータルとしては、2007（平成19）公開の「PORTA」から「NDLサーチ」（2010（平成22）公開）へ
 - 2024（令和6）年1月には、「NDLオンライン」（2018（平成30）年に「NDL-OPAC」を引き継ぐ）を統合
- さらに、「ジャパン・サーチ」を2020（令和2）年に正式公開

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><rdf:RDF xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/" xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I0330535"><dcndl:catalogingStatus>C7</dcndl:cat>><dcterms:description>type book</dcterms:description><dcterms:issuanceDate>111</dcterms:issuanceDate></rdf:RDF>
```

おわりに

- 「知識の泉」、「立法のブレーン」、「整理の元締」の役割を変化とともに新たに・・・
- 新しい領域への、実験、計画、事業化、成果の提供、制度化、運用、さらなる課題の積み重ね
- 多様な関係者との協議・協力、ユーザのサポート、社会の要請
- NDLも2023（令和5）年で創設75年。
 - ▶ ようやく「歴史」を語れるようになってきた？

これからも期待しています！

